

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年1月16日

予報期間：1月18日～2月17日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。  
東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。  
西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。  
北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

# 全般1か月予報

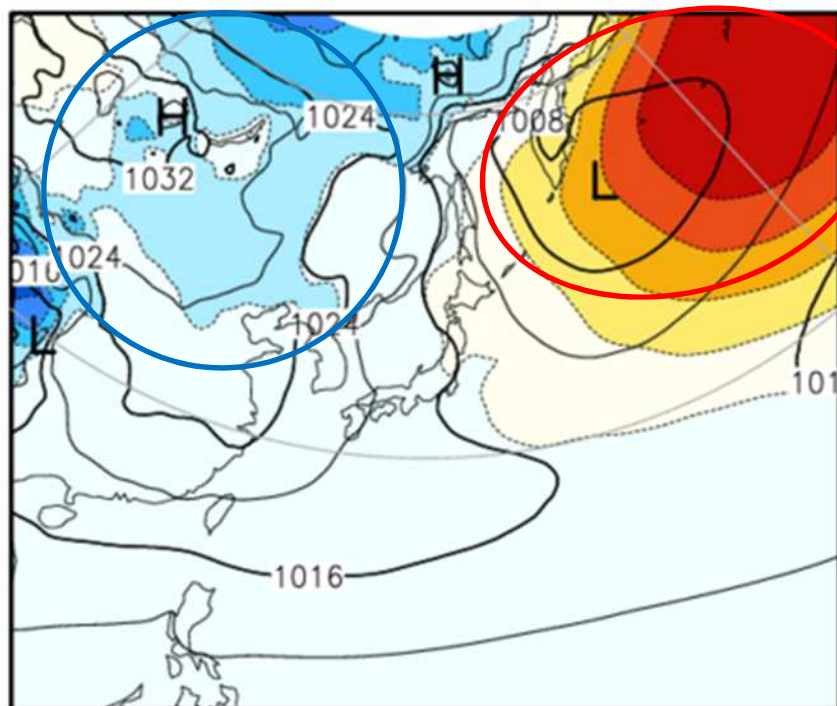
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	40:40:20	20:40:40	60:30:10
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
東日本	日本海側	10:30:60	40:40:20	20:30:50	60:30:10
	太平洋側		20:40:40	40:30:30	
西日本	日本海側	20:30:50	40:30:30	30:30:40	50:30:20
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
沖縄・奄美		30:40:30	40:40:20	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	20:40:40
東日本	10:10:80	10:20:70	20:40:40
西日本	10:10:80	10:30:60	40:30:30
沖縄・奄美	20:50:30	20:50:30	40:40:20

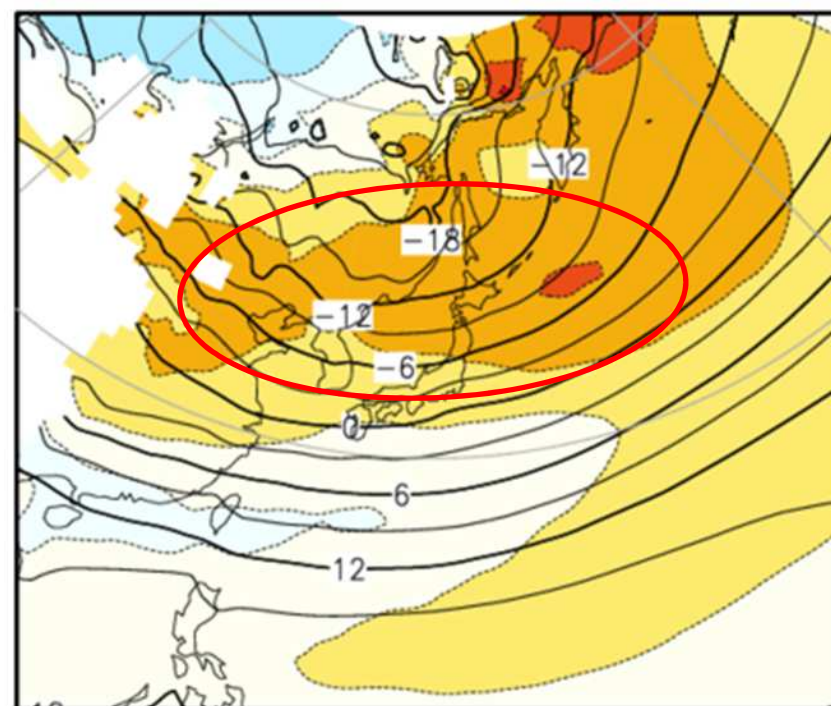
## 全般予報のポイント

- ・北・東・西日本では、寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。
- ・冬型の気圧配置が長続きしないため、向こう1か月の降水量は、北・東日本日本海側で平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は、北日本日本海側で平年並か多く、東日本日本海側では多いでしょう。向こう1か月の降雪量は、北・東・西日本日本海側で少ないでしょう。
- ・東日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、低気圧や気圧の谷の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

## 海面気圧(1か月)



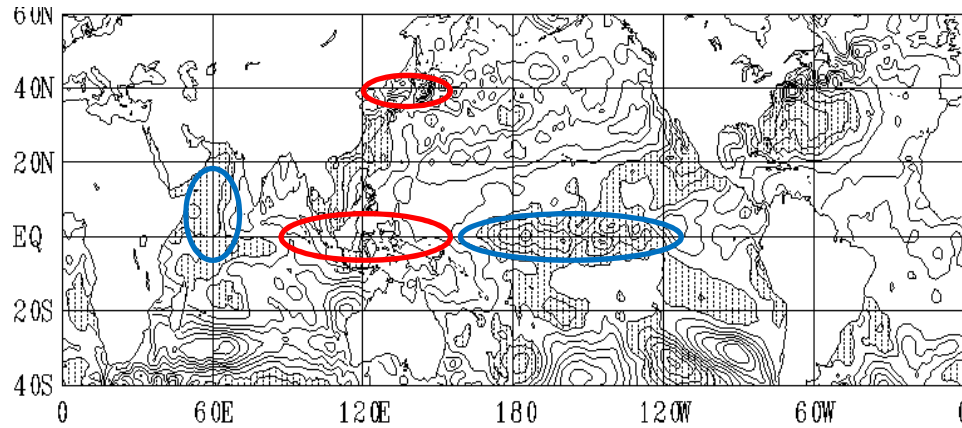
## 上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、アリューシャン低気圧が弱く、シベリア高気圧も弱いでしょう。このため、日本付近では冬型の気圧配置が長続きせず、東日本太平洋側では低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。

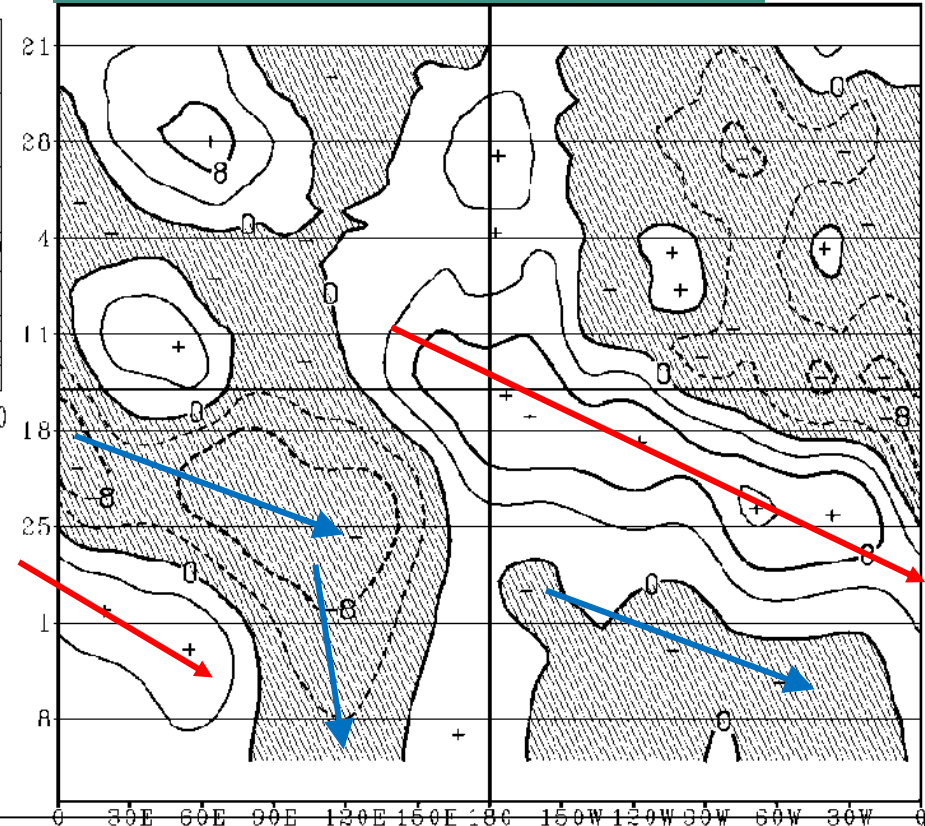
上空約1500mの気温(右図)は、北・東・西日本付近は、大陸から伸びる平年より高い領域に覆われるため、寒気の影響が弱いでしょう。沖縄・奄美付近では平年からの隔たりが小さく、平年同様に寒気の影響を受けるでしょう。

## SST偏差



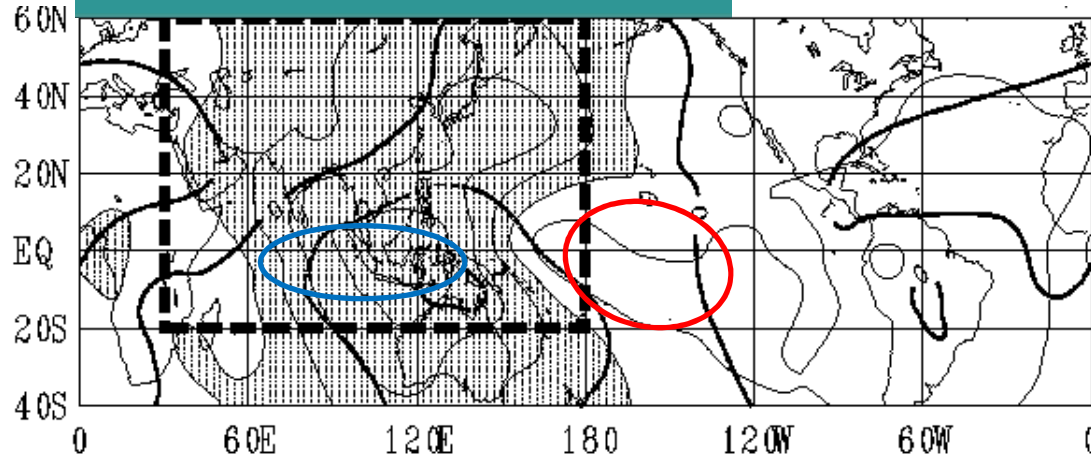
熱帯域では、インド洋西部で負偏差。インド洋東部から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域中部で負偏差。ラニーニャ現象的なSST偏差分布。日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



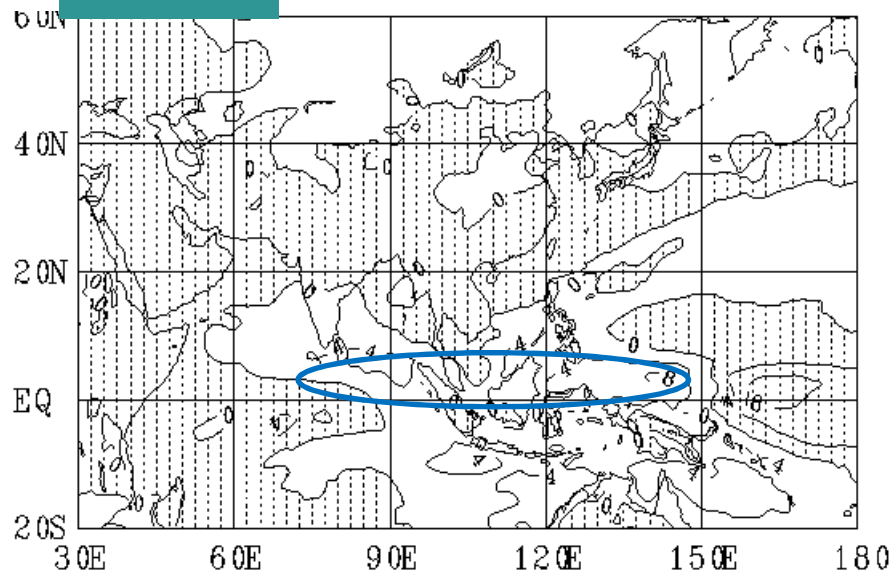
赤道季節内振動(MJO)に伴い、対流活動活発域が期間前半にアフリカからインドネシア付近に東進、期間後半はインドネシア付近で活発な状態が持続。この持続にはラニーニャ現象的なSST偏差が寄与。

## 200hPa速度ポテンシャル



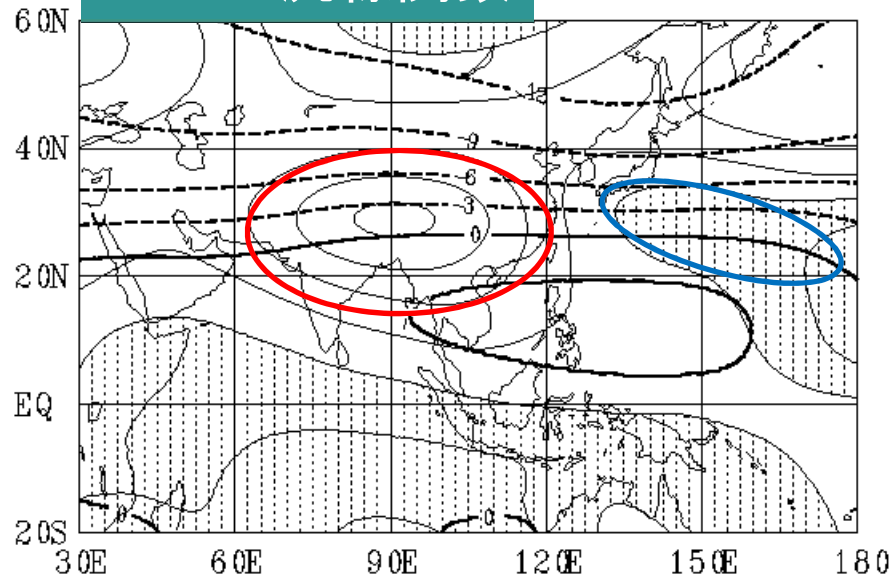
熱帯の対流活動に対応して、インド洋中部からインドネシア付近にかけて上層発散偏差の一方、太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



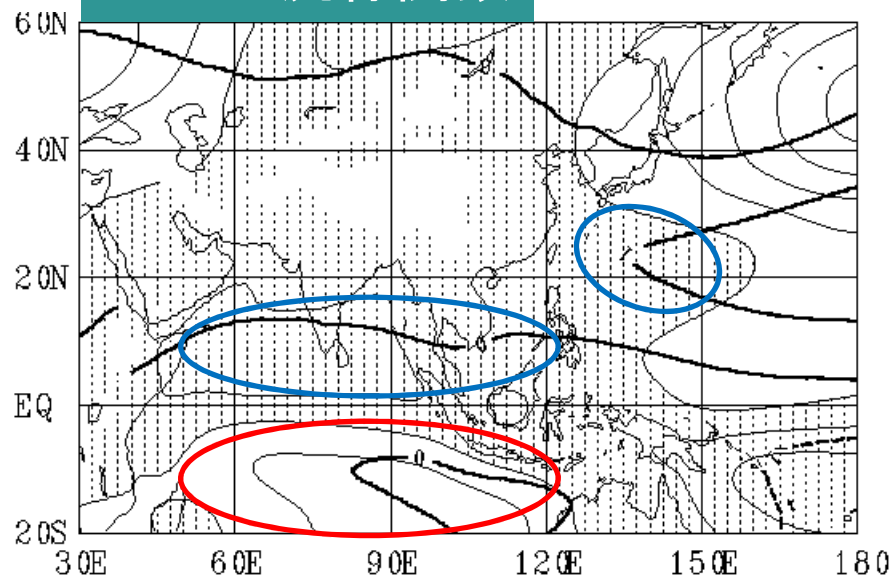
インド洋中部の熱帯域からニューギニアの北にかけて多雨偏差。

## 200hPa流線関数



パキスタンから華南付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南で低気圧性循環偏差。これらは、熱帯対流活動に強制された亜熱帯ジェット気流沿いの波列に対応。

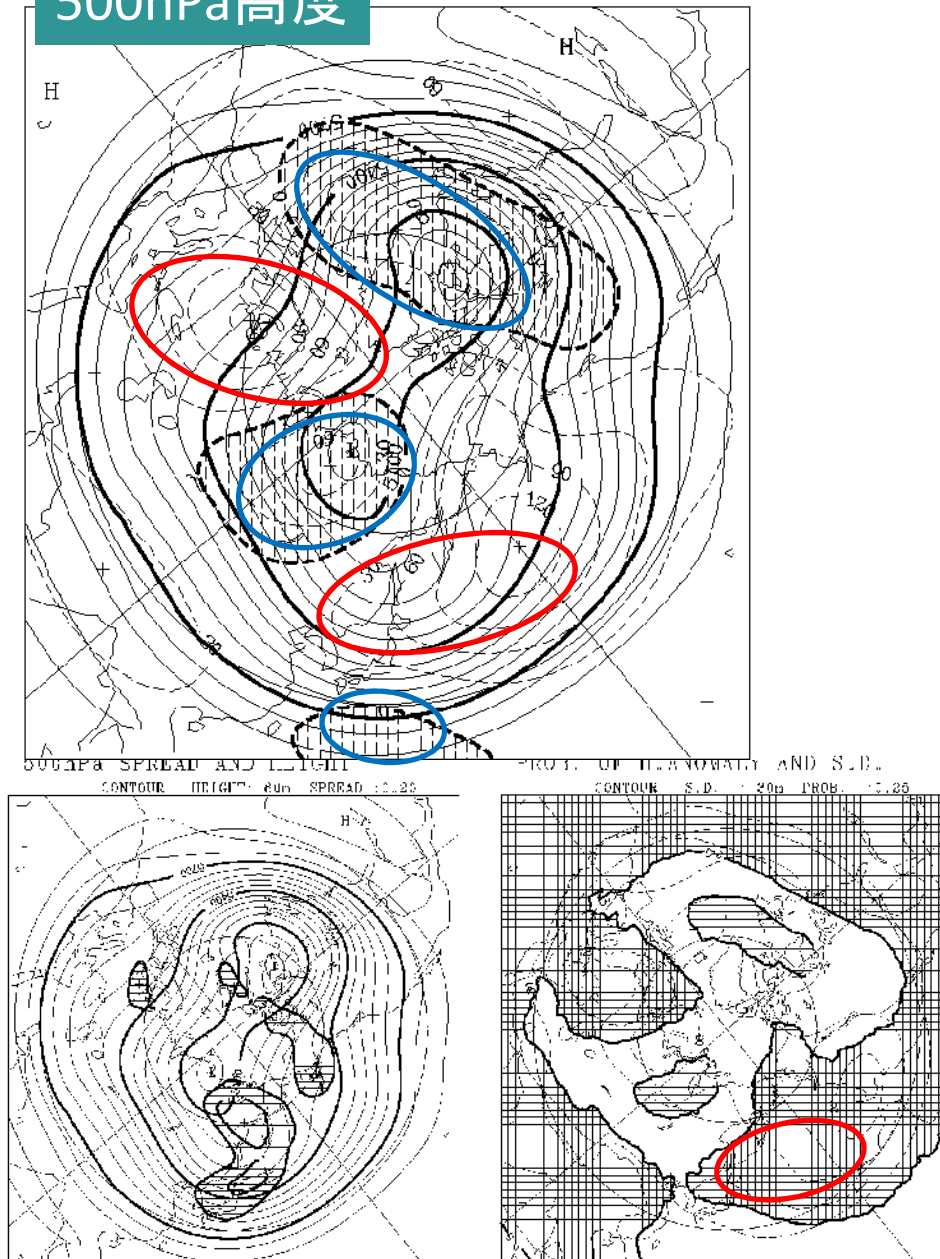
## 850hPa流線関数



熱帯の対流活発の影響で、インド洋からインドネシア付近にかけて赤道対の低気圧性循環偏差。日本の南も低気圧性循環偏差で、これは上層の波列に対応。

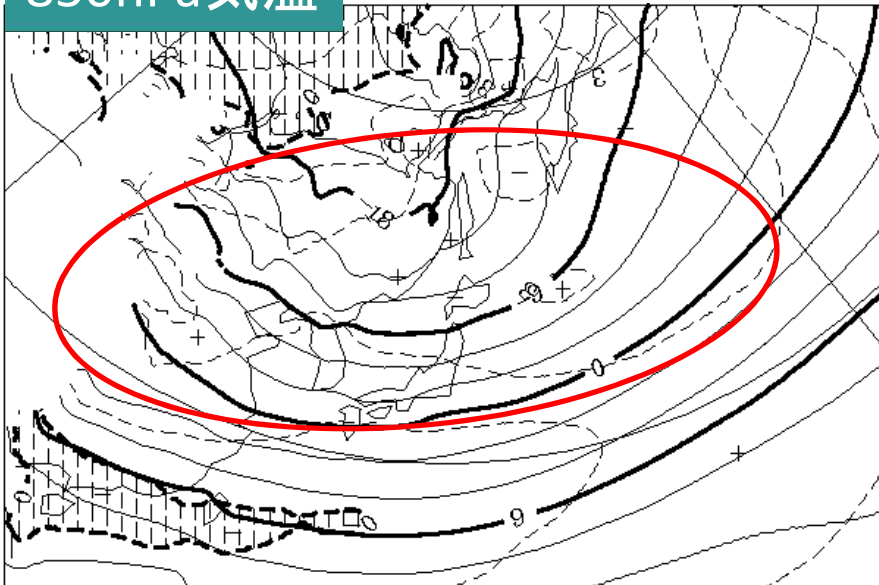


## 500hPa高度



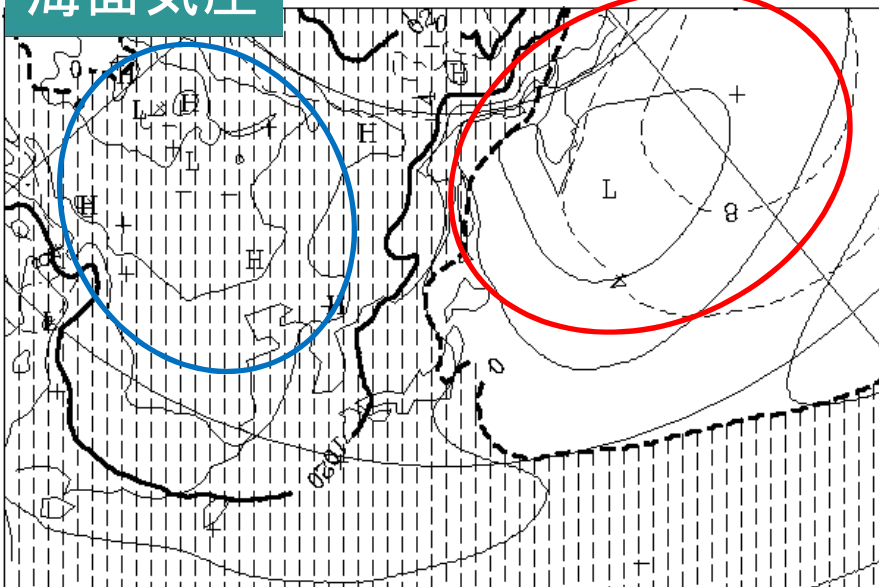
極渦がカナダの北東と中央シベリア付近で強い。これらの極渦と関連して、寒帯前線ジェット気流沿いの波列が明瞭で、極東のトラフが浅く、日本付近に寒気が流れ込みにくい場となる。日本付近は北日本を中心とする正偏差で、北・東日本には正の高偏差確率50%以上の領域がかかる。一方、日本の南には負偏差域があり、亜熱帯ジェット気流に沿った波列に対応。

## 850hPa気温



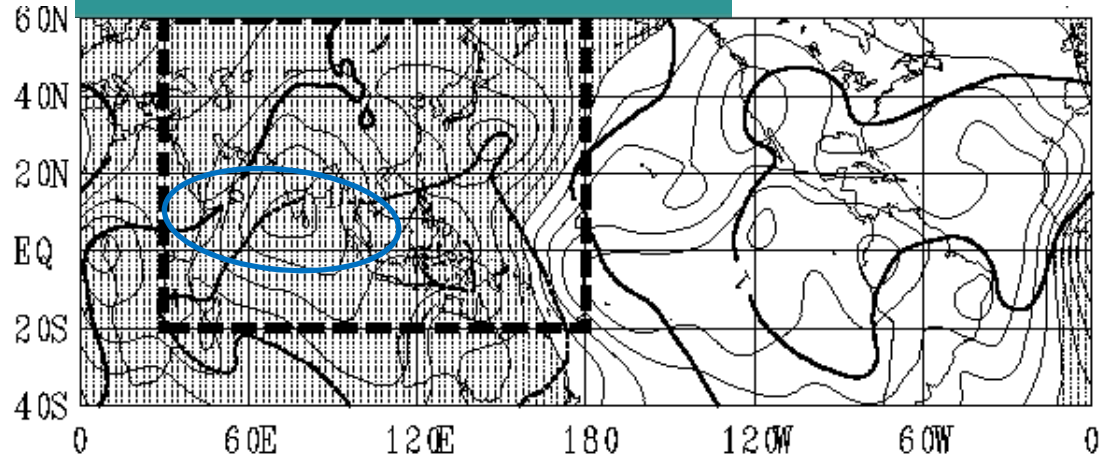
北・東・西日本付近は、大陸から伸びる正偏差域に覆われるため、寒気の影響が弱い。沖縄・奄美付近では偏差が小さく、平年同様に寒気の影響を受ける。

## 海面気圧



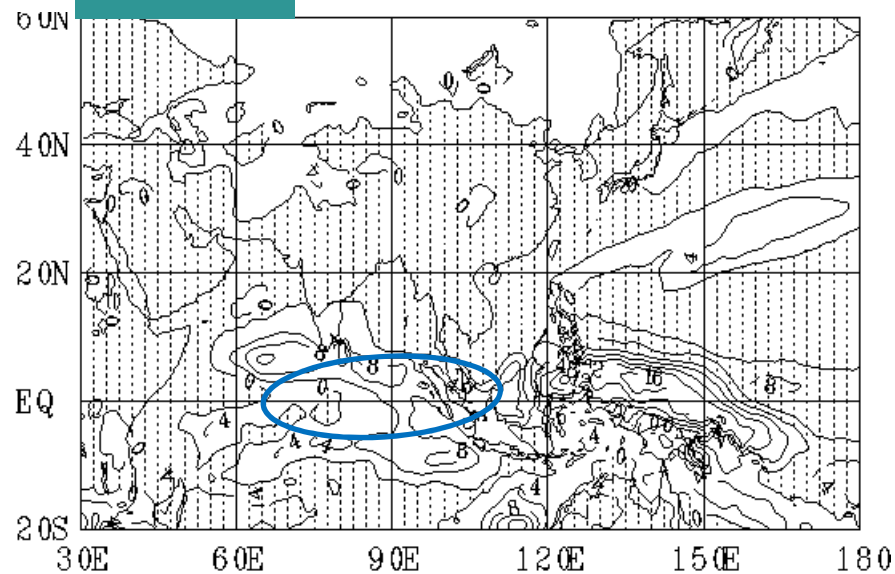
アリューシャン低気圧が弱く、シベリア高気圧も弱い。このため、日本付近では冬型の気圧配置が長続きせず、東日本太平洋側では低気圧の影響を受けやすい時期がある。

## 200hPa速度ポテンシャル



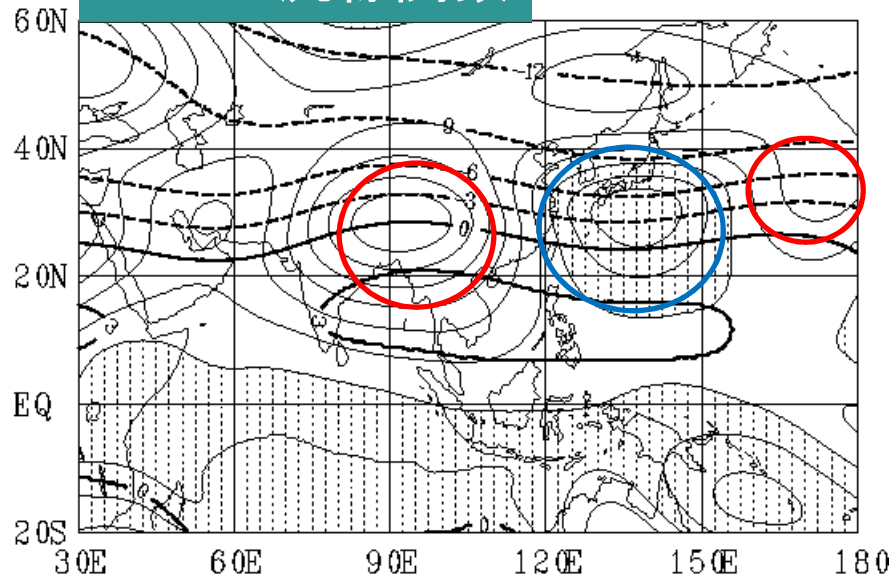
インド洋熱帯域で上層発散偏差。

## 降水量



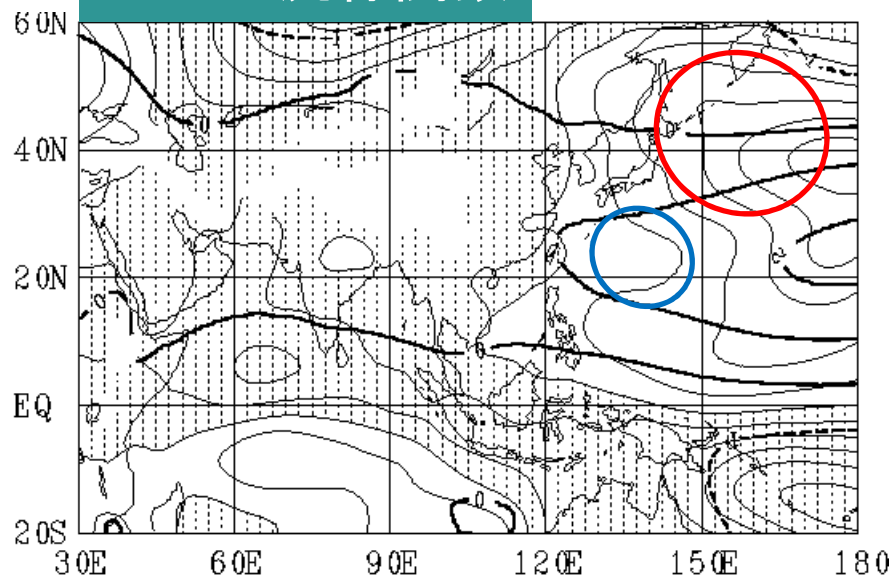
インド洋中部～東部の熱帯域で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



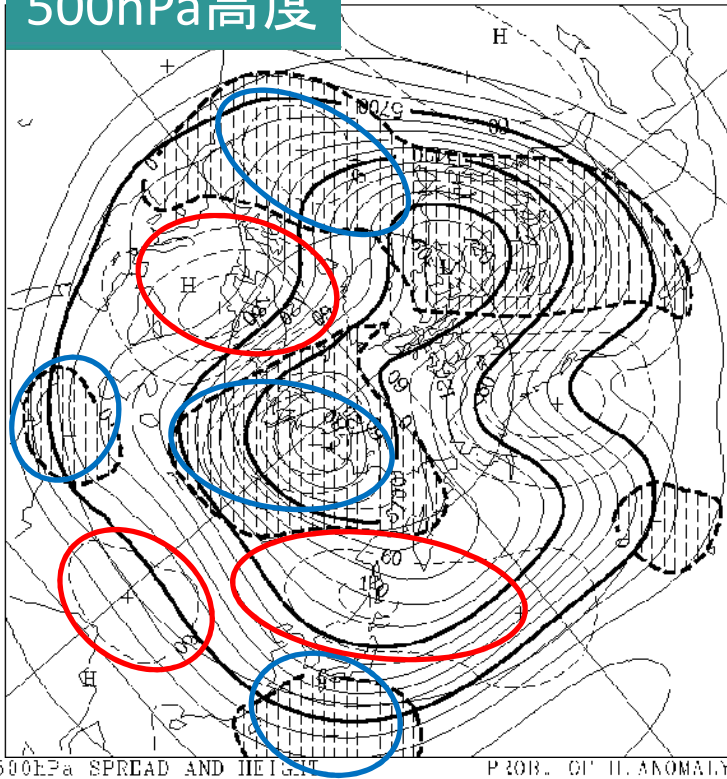
亜熱帯ジェット気流沿いの波列が明瞭で、その一環として日本の南を中心に低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



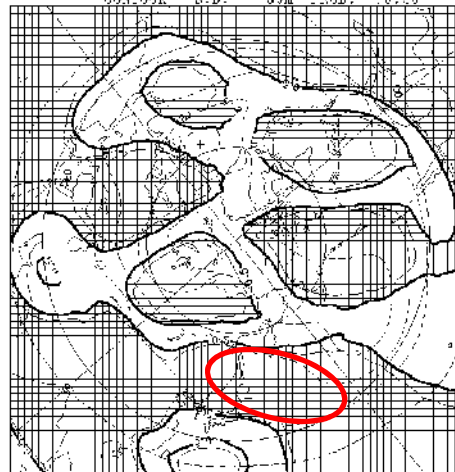
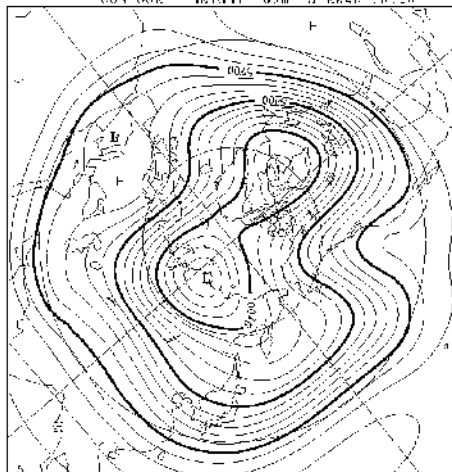
上層の波列に対応して、日本の南に相対的な低気圧性循環偏差。日本の東は高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



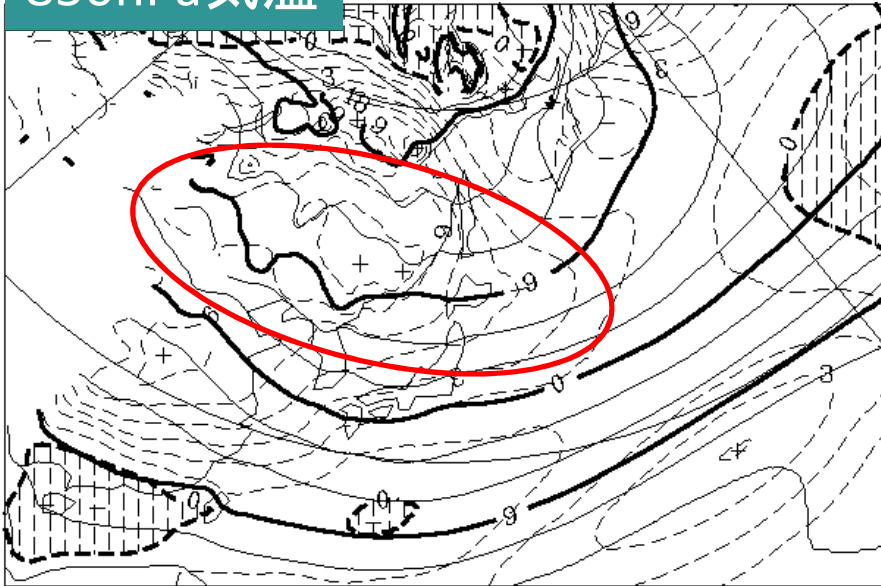
500hPa SPREAD AND HEIGHT  
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



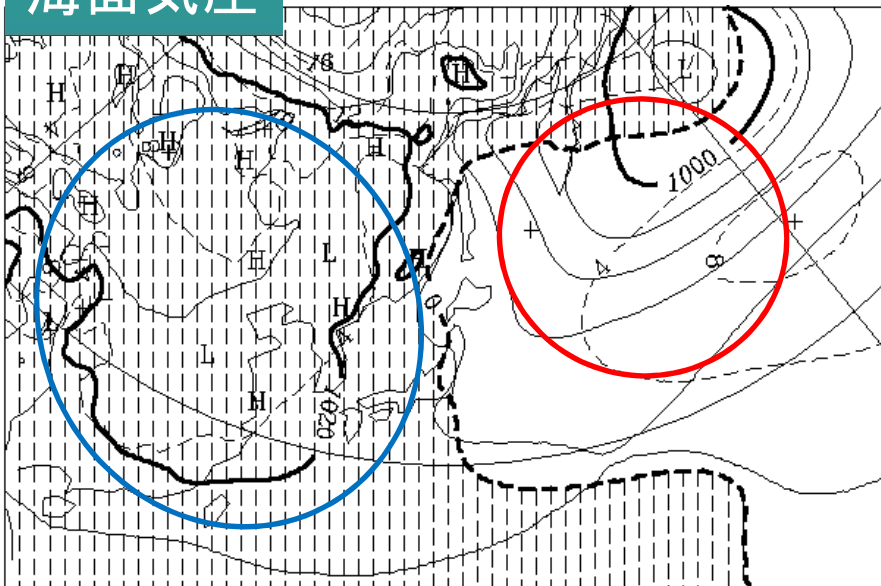
寒帯前線ジェット気流沿いの波列が明瞭で、北日本はオホーツク海付近を中心とする強い正偏差域に覆われ、正の高偏差確率50%以上の領域がかかる。一方、亜熱帯ジェット気流沿いの波列も明瞭で、沖縄・奄美は、日本の南付近のトラフに対応する負偏差域に覆われる。

## 850hPa気温



北・東・西日本は、中国東北区付近を中心とする強い正偏差域に覆われる。沖縄・奄美も正偏差。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧もシベリア高気圧も弱く、冬型の気圧配置が長続きしない。沖縄・奄美は高気圧に覆われやすい。

## 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないため、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

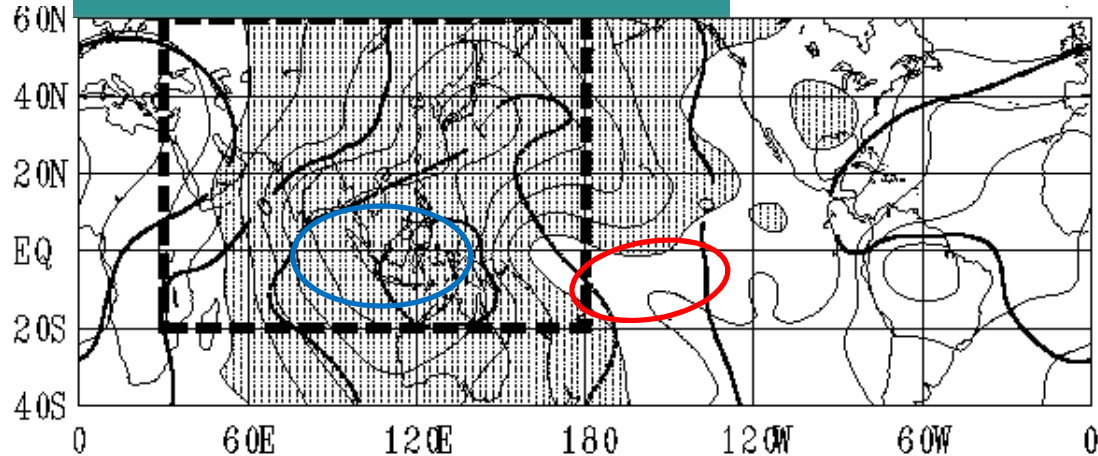
### <気温>

- ・ 北・東・西日本は寒気の影響が弱いため高温で、かなりの高温となる所が多い。沖縄・奄美は並温。

### <天候>

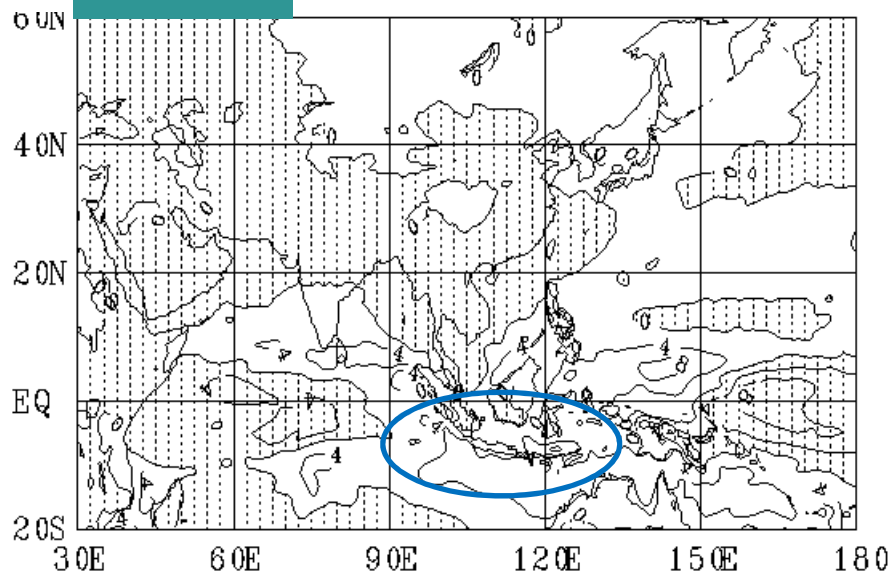
- ・ 北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かない。
- ・ 沖縄・奄美では高気圧に覆われやすい。

## 200hPa速度ポテンシャル



熱帯域のインド洋中部からインドネシア付近にかけて上層発散偏差。  
太平洋中部で上層収束偏差。

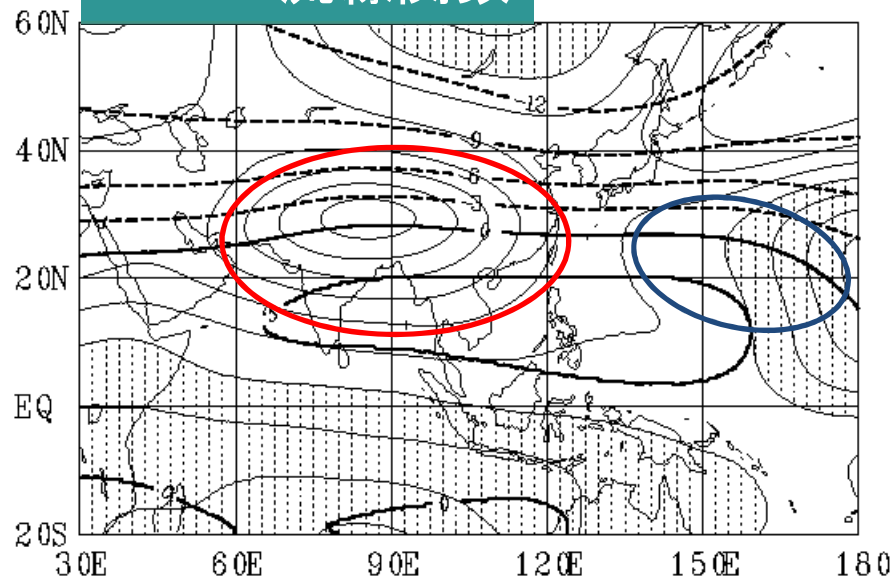
## 降水量



熱帯域のインド洋中部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。

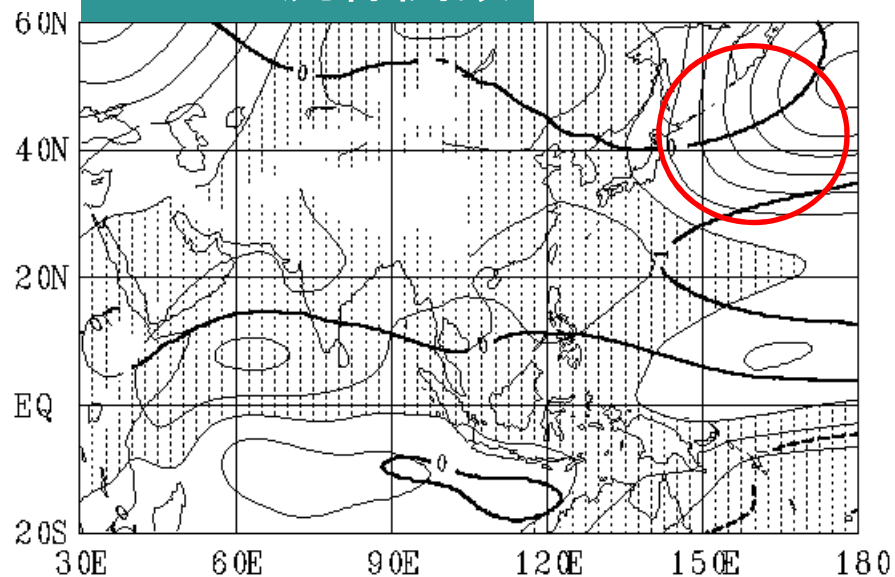


## 200hPa流線関数



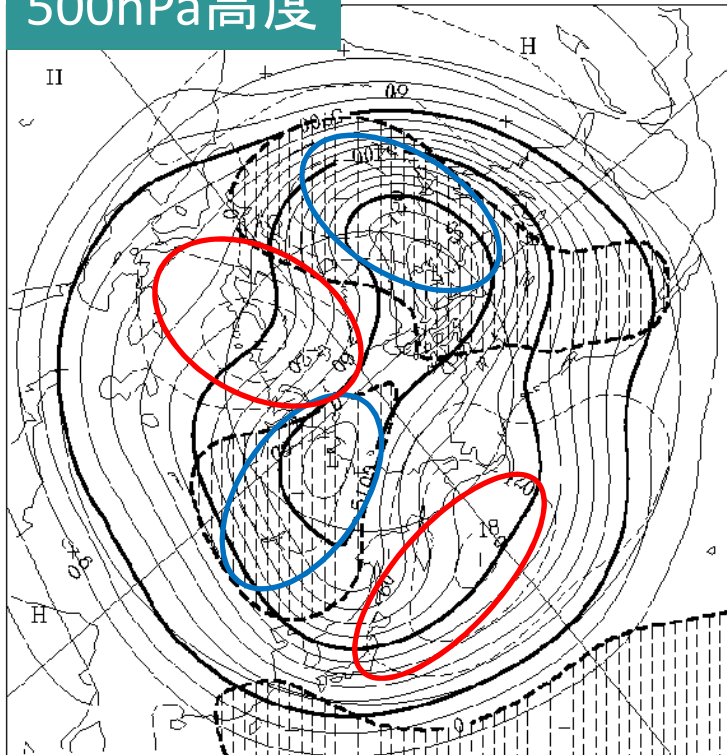
パキスタン付近から華中付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南東に低気圧性循環偏差。これらは、熱帯対流活動に強制された亜熱帯ジェット気流沿いの波列に対応。

## 850hPa流線関数



日本付近から東海上にかけて高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度

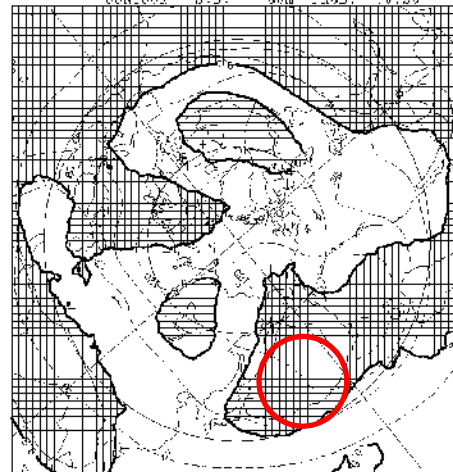
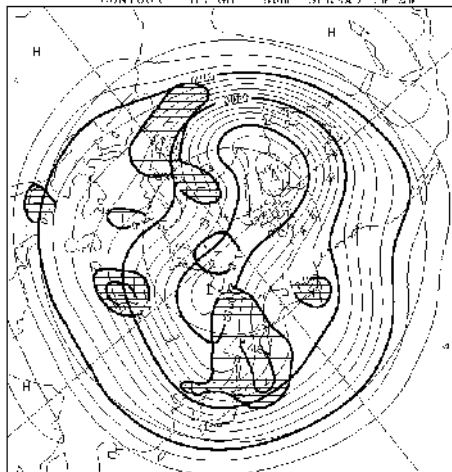


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

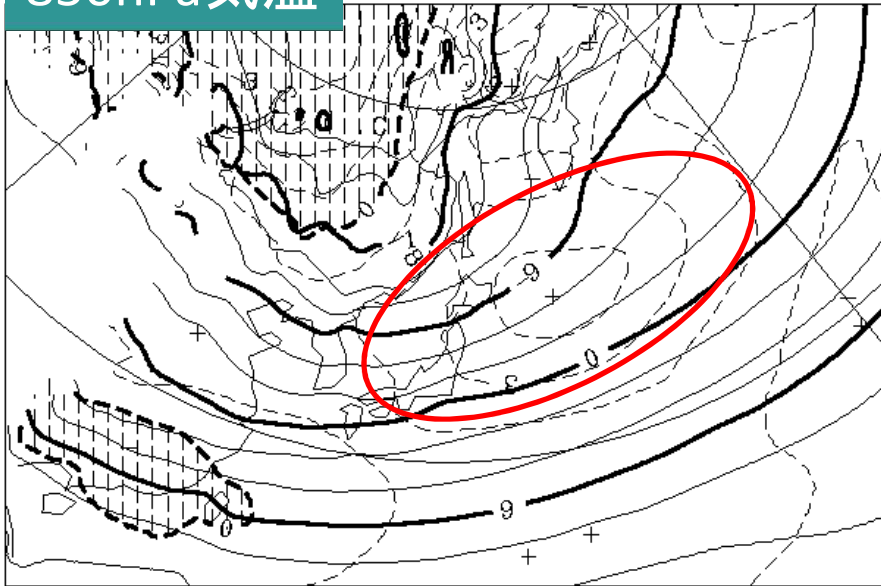
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 200 0.25



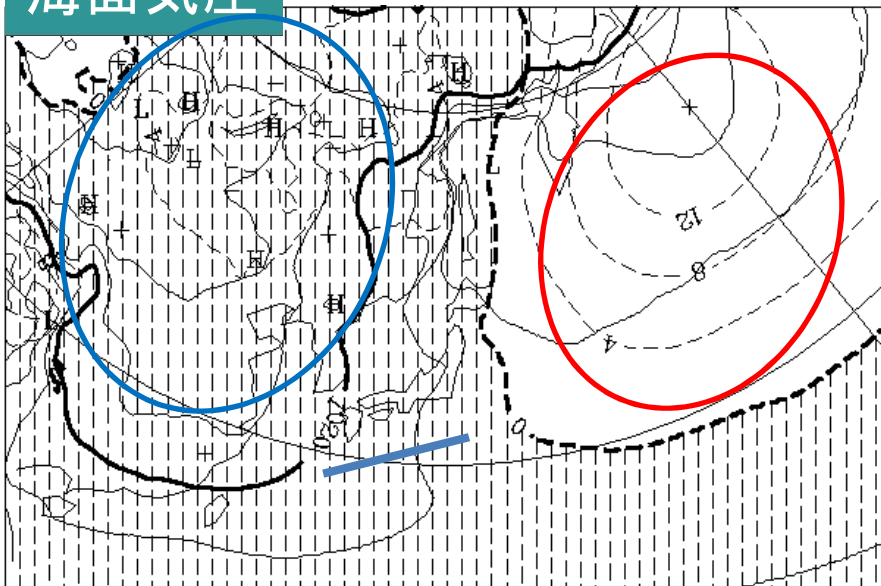
寒帯前線ジェット気流沿いの波列の一環として、日本付近から日本の東にかけて正偏差が強く、北・東日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われ、寒気の影響を受けにくい。

## 850hPa気温



北日本を中心に全国的に正偏差。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧、シベリア高気圧ともに弱く、冬型の気圧配置は長続きしない。日本の南には気圧の谷があって、南岸低気圧の影響を受ける時期がある。

## 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

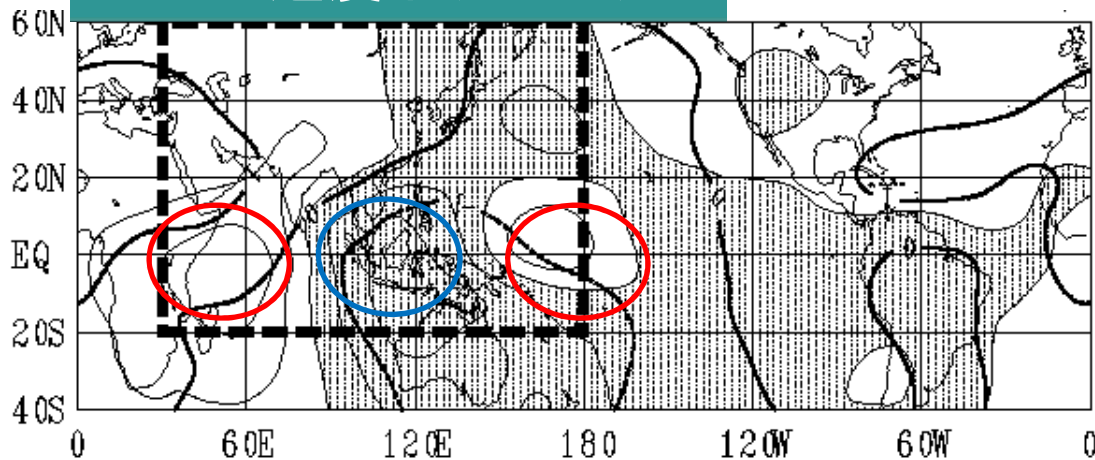
### <気温>

- ・ 寒気の影響を受けにくいいため、北・東・西日本は高温で、かなりの高温となる所が多い。
- ・ 沖縄・奄美は平年並。

### <天候>

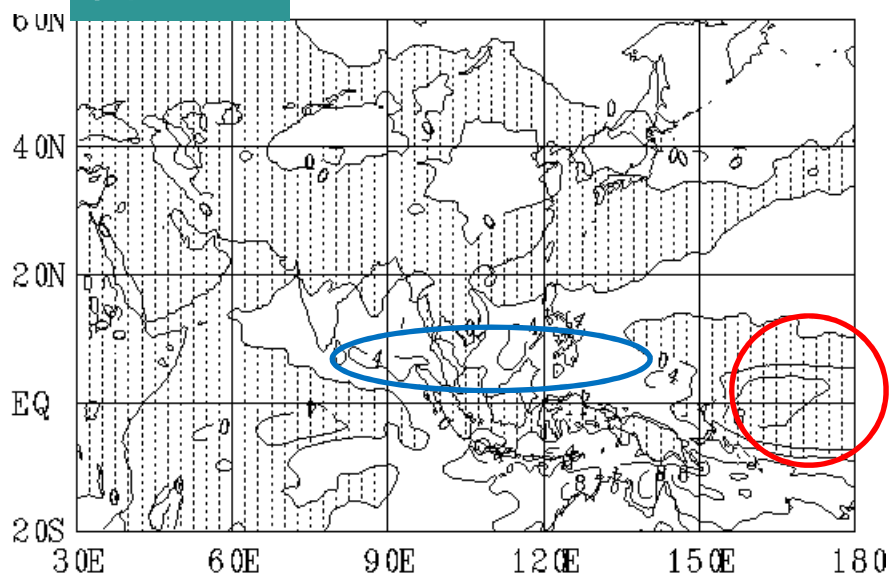
- ・ 北・西日本日本海側では冬型の気圧配置が続かない一方、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすい。
- ・ 東日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かない。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすい。

## 200hPa速度ポテンシャル



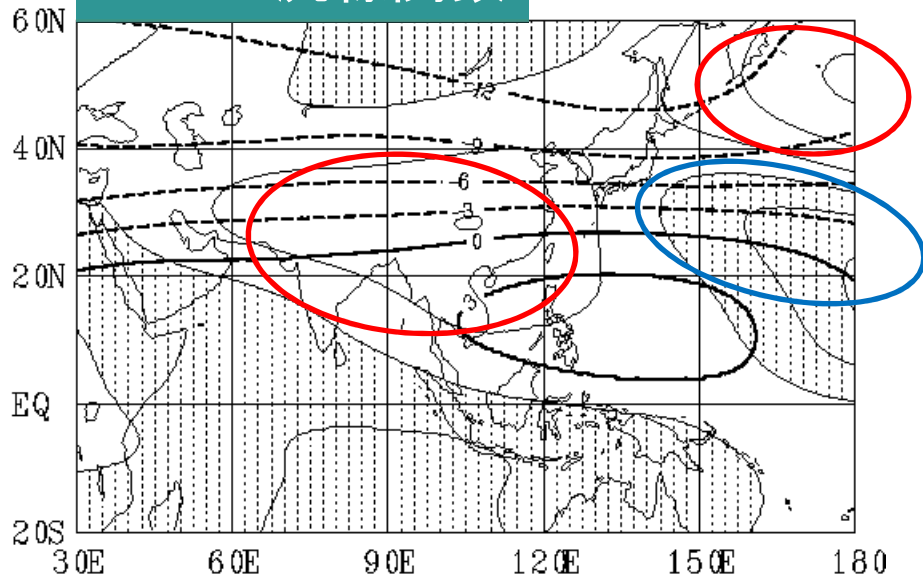
インドネシア付近で上層発散偏差、インド洋西部と日付変更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



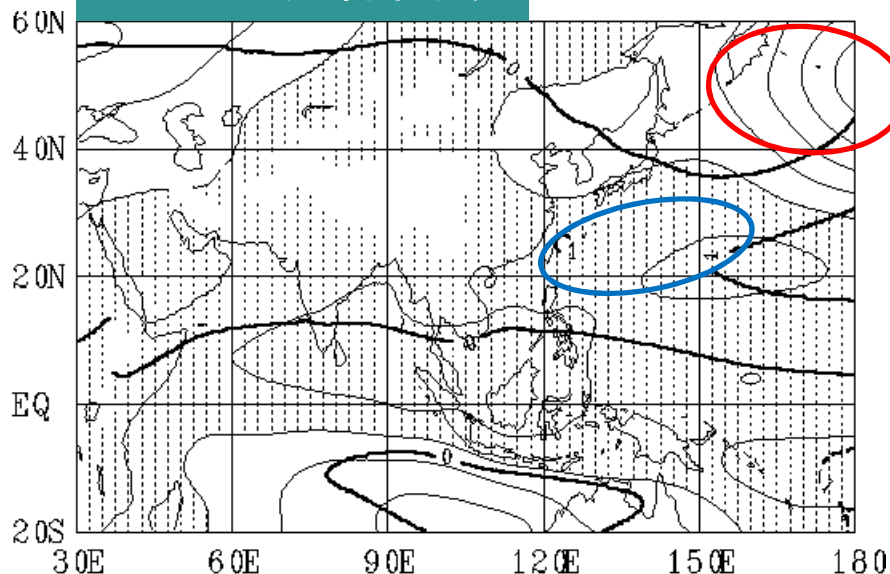
インド洋東部からフィリピン付近にかけて多雨偏差、日付変更線付近で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



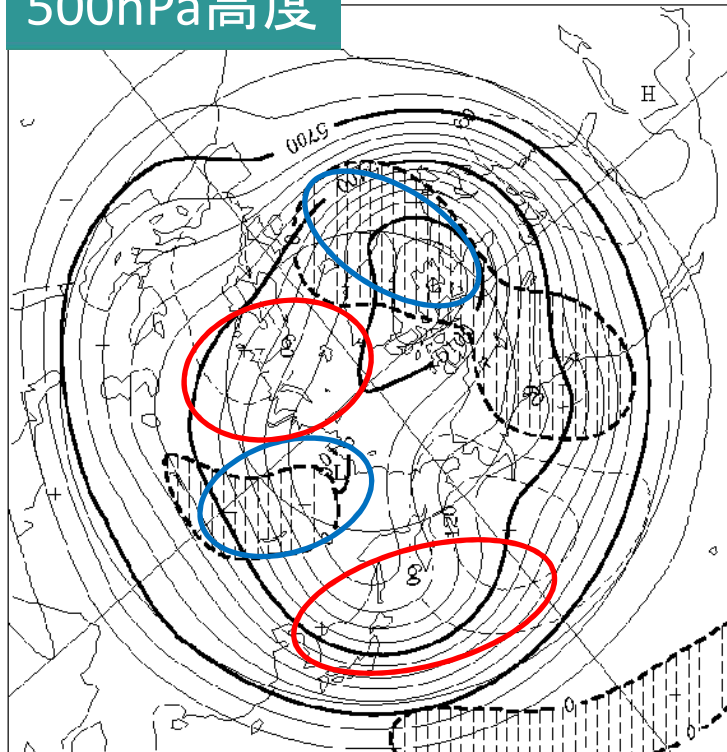
パキスタンから華中付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南東に低気圧性循環偏差。アリューシャン近海に高気圧性循環偏差。熱帯対流活動の影響を示唆。

## 850hPa流線関数



日本の南に低気圧性循環偏差で、太平洋側や沖縄・奄美に湿った空気が入りにくい。また、アリューシャン近海に高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



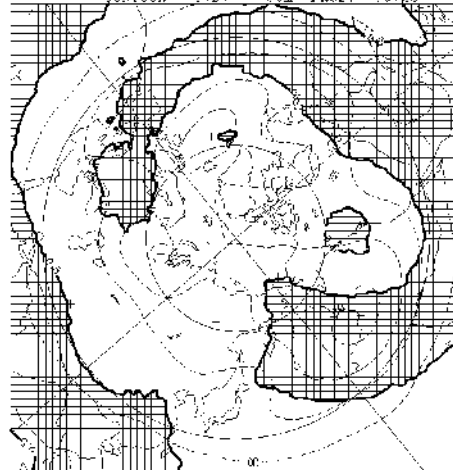
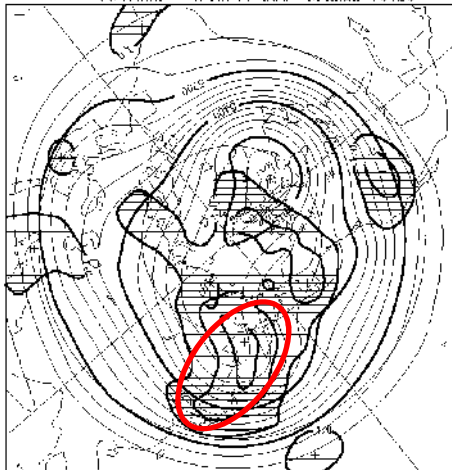
寒帯前線ジェット気流に沿った波列が明瞭で、日本付近は正偏差。日本付近ではスプレッドが大きいことに留意。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

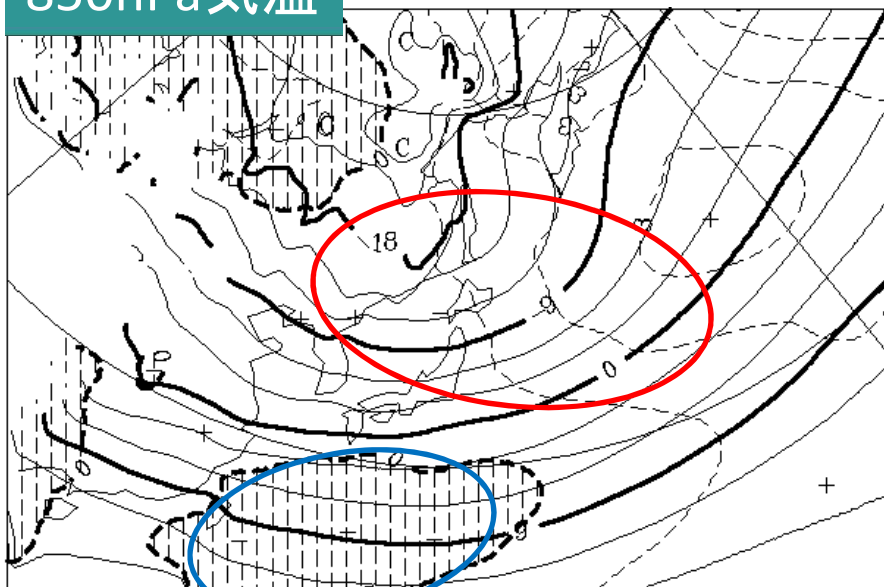
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

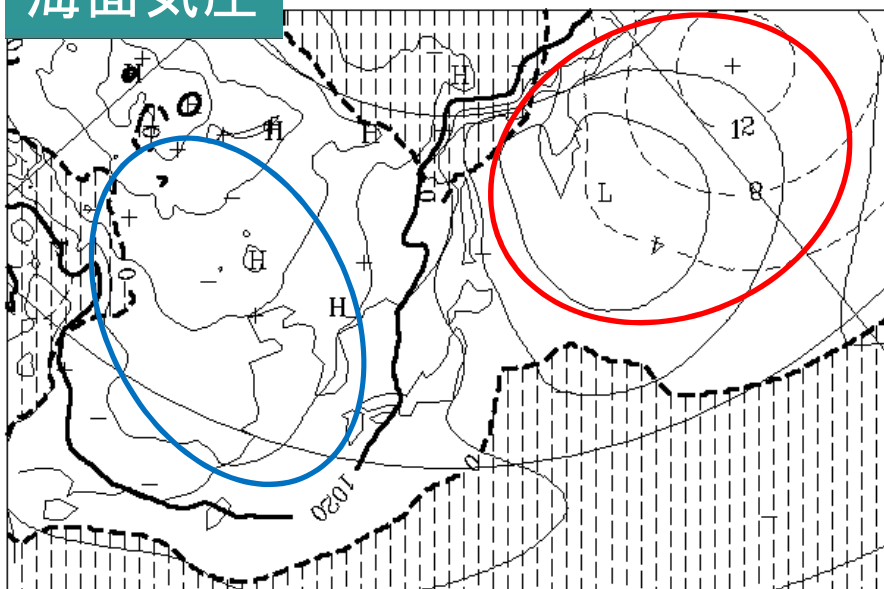


## 850hPa気温



日本付近は、北・東日本は正偏差の一方、沖縄・奄美は負偏差。モデルよりもインドネシア付近の対流活動の影響が強くなると推察し、日本付近の気温をやや低温側にシフトして考える。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧が弱い一方、シベリア高気圧は強まる。北日本では、冬型の気圧配置が長続きしない一方、沖縄・奄美を中心に大陸の高気圧に伴う下層寒気の影響を受ける時期がある。



## 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

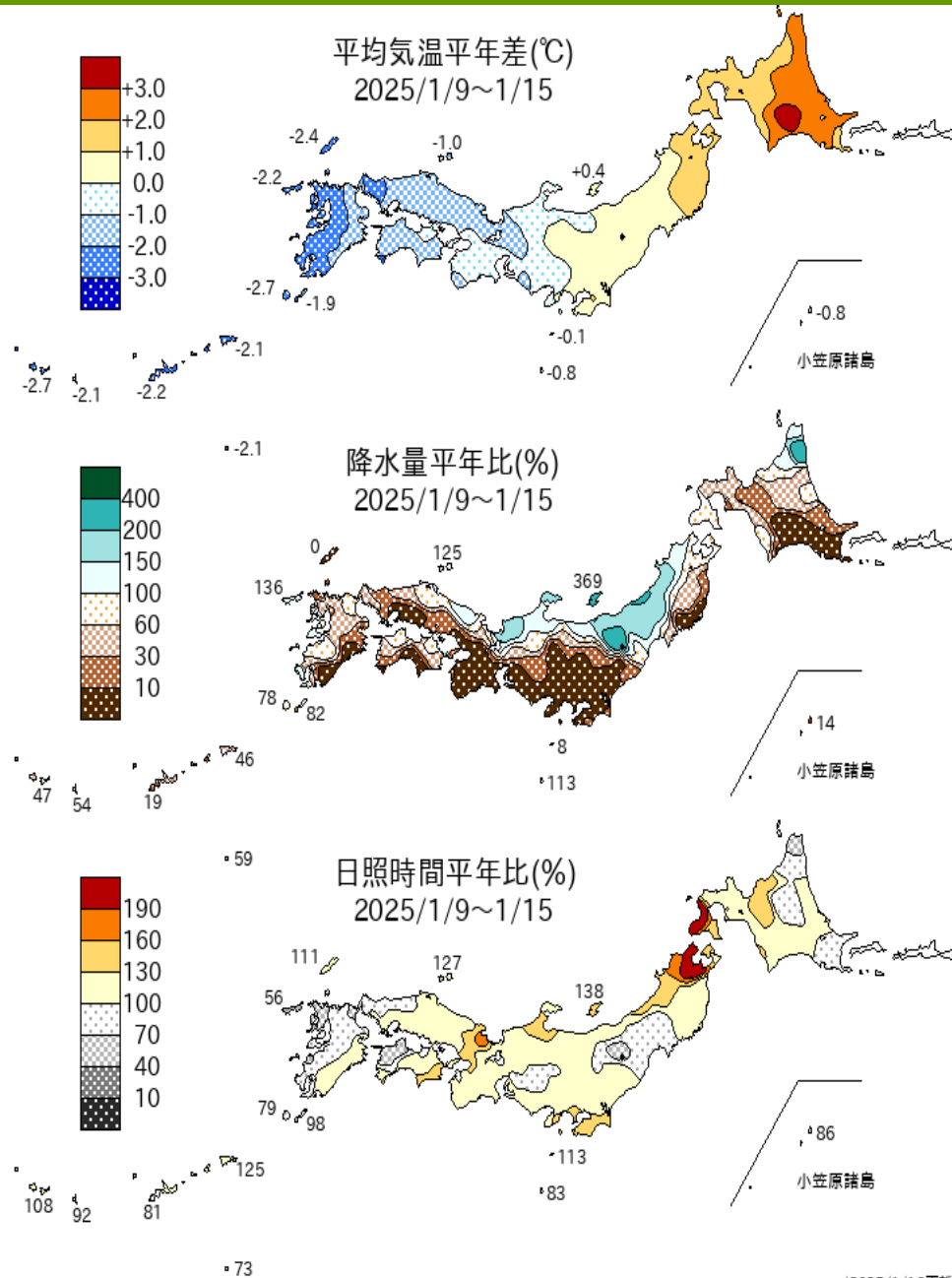
### <気温>

- ・ 寒気の影響がやや弱いため、北・東日本では高温傾向。下層寒気の影響を受けやすい沖縄・奄美は低温傾向、西日本はほぼ平年並。

### <天候>

- ・ 全国的に平年と同様の天候を見込む。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(1月9日~1月15日)は、期間の前半は冬型の気圧配置が強く、北・東・西日本の日本海側を中心に大雪となった所がありました。その後は冬型の気圧配置が緩み、西日本を中心に高気圧に覆われました。低気圧の影響を受けにくかった北・東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、降水量が平年を下回りました。日照時間は平年を上回った所が多くなりました。気温は寒気の影響を受けにくかった北日本で平年を上回りましたが、強い寒気の影響を受けた西日本と沖縄・奄美では平年を大きく下回りました。